

相談室だより(みさき・くろさき 2011年11月)

担当：みさき病院 MSW 三宅

朝晩が冷え込み、寒さを日々感じるようになってきました。
温かいおでんが美味しい時期ですね (*^_^*)

今回の相談室だよりは、

9月に大牟田市で行われた

『徘徊 SOS ネットワーク模擬訓練』

参加を通じて、地域についての報告をさせていただきます。



●7/5 校区実行委員への初めて参加

手鎌校区実行委員へ初めて参加し、『徘徊 SOS ネットワーク模擬訓練』の準備を事務局である「ふかうらの家」の立嶋主任の司会のもと、以下のメンバーが集まり始動しました。

- ☆手鎌校区公民館連絡協議会会長
- ☆手鎌校区社会福祉協議会会長
- ☆手鎌校区民生委員・児童委員会会長と委員の方
- ☆長寿社会推進課
- ☆北部包括支援センター
- ☆手鎌消防団分団長
- ☆保護司会
- ☆小規模多機能「てつお」
- ☆サンアビリティーズおおむた（障害福祉）
- ☆潮（障害福祉）
- ☆こもれび（居宅）
- ☆サンファミリー
- ☆サンホリデー
- ☆くろさき苑
- ☆みさき病院

今回の訓練テーマであった徘徊が発生してからの情報伝達がいかに迅速に行うことができるかについて10月まで定例で協議が行われました。

●8/25 市主催のサービス事業者向けの連絡会に参加

徘徊行方不明時の対応ガイドラインについての説明を受けました。（東翔会グループはすでにガイドラインを利用して実践されている）

●9/7 市主催の全体連絡会に参加

各校区の実行委員会の報告および、サービス事業者の取り組み報告、医療機関の取り組み報告がありました。「みさき病院」の取り組みについても市より報告を求められ、壇上で報告しました。

●9/9 手鎌校区の認知症サポーター養成講座に参加

司会は、「ふかうらの家」立嶋主任で、講師は、「みさき病院」南病棟の宮川科長、ロールプレイ役には「ねむの里」田上主任でした。

●9/21 徘徊模擬訓練当日

情報がなかなか届かないと不安がありながらも、「みさき病院」では笠原事務長が事務局のもと、玄関前に18名の職員が集まり検索開始。

検索には、民生員の方、他事業所の方と遭遇し挨拶と検索状況を報告しあう場面もありました。みさき病院周辺を初めて検索したこともあり参加者は、初めて通る道が多かったようです。

●10/6 実行委員会での反省会

情報伝達については、電話での伝達およびFAXでの伝達に一部時間がかかるということで、今後は、徘徊が地域で発生した場合は、各事業所に情報資料を準備してもらい、地域の方が最寄りの事業所に情報資料を取りにくることで決まりました。

また、「みさき病院」は白衣に腕章だったためか、「多くの方が検索されていた」とお褒めの言葉をいただく場面もありました。

●11/5 「人・心・まちづくり」地域ミーティング参加

以下の報告がありました。

- ☆訓練参加校区 : 22 校区
- ☆高齢者等 SOS ネットワーク参加事業所 : 8 事業所
- ☆サービス事業所・病院 : 31 事業所
- ☆訓練参加者 : 2007 名
- ☆情報伝達の協力者 : 1865 名
- ☆検索活動の協力者 : 1152 名
- ☆情報伝達所要時間 : 50.3 分

★今回、実行委員会に参加して感じたこと★

情報伝達の協議以外にも、各事業所への地域からの要望や意見が出され、手鎌校区でのふかうらの家・みさき病院・くろさき苑の役割について改めて考えさせられました。近隣の地域の方からは、親仁会という法人ではなく、地域の中にある一事業所として見てあります。

手鎌校区では、今後、まちづくり協議会を発足され、徘徊模擬訓練の実行委員会もこの協議会に参加となります。代表は、「ふかうらの家」立嶋主任です。「ふかうらの家」は地域の拠点として、認められている結果ではないでしょうか。

また、校区内のサロンにおいて、これから認知症についての学習会も開催されていく予定となっており、講師は、各事業所の認知症コーディネーター修了生を筆頭に考えられています。社会福祉協議会会長からは、講師依頼の第一声は、「みさき病院」の宮川科長でした。

他の要望としては、以前から言われてありましたが、サロンをする場の提供があります。地域の事業所をみると、すでにサンホリデーがサロンの場を提供されており、定期的に利用されています。

校区内にある事業所としては、今後、地域の方と共に地域で生きること。つまり『共生』の視点で、地域への関わりを考えて行くことが課題ではないでしょうか。

(余談ですが、うれしいこともありました。手鎌地域の方が、入院されてあった時に、MSWの名前(緒方・三宅)を覚えていただいております、民生委員の方と共に退院支援や生活支援を実施させていただきました。)

地域について関連した御報告！！

みさき病院MSW緒方主任が、親仁会SWを代表して、大牟田市が取り組んでいる震災支援に12/5～12/19の間、被災地に支援に行かれます。

注) 民医連の行っている支援とは異なります。

これから、益々冷え込みが厳しくなるなかの支援です。みなさん、緒方主任を見かけたら、激励の言葉をお願いしますね(@^^)/~~~

では、支援に行かれる緒方主任から一言いただきたいと思えます。

↓↓↓↓↓↓↓↓

12月5日から12月19日まで、「東日本大震災復興支援～絆～プロジェクトおおむた」の派遣員として、宮城県南三陸町に行ってきます。

まず、「プロジェクトおおむた」の活動概要を説明します。

?「プロジェクトおおむた」って?

『大牟田市社会福祉協議会』、『大牟田市介護サービス事業者協議会』、『大牟田市障害者協議会』の3団体で今年の3月に結成されています。ここから、職員を派遣し(親仁会は、大牟田市介護サービス事業者協議会に加入)、震災支援を行っています。これまでに医師やソーシャルワーカー、介護福祉士が派遣されています。

?どんな活動なの?

1995年の阪神大震災では、仮設住宅での孤独死が大きな問題となりました。今回の被災地においても、被災者が集まる仮設住宅では、部屋に閉じこもる高齢者などの孤立問題が懸念されます。そこで、仮設住宅に集いの場を作ることとしました。具体的には、津波で塩害を受けたスギで作った組み立て式のテーブルとベンチを、宮城県南三陸町の仮設住宅で暮らす人たちに贈り、交流の場を作っています。詳しくは「有明新報」や「大牟田社会福祉協議会のブログ」<http://ameblo.jp/omshakyo-kizuna/>をご参照ください。

!!支援にあたっての思い!!

今回、法人のSW委員会で協議し、まずは緒方弘が行くこととなりました(僕だけ独身なので、結構身軽なので...)。SW委員会としても、地域福祉の視点での支援、しかも長期的な支援が必要と感じています。この視点は、被災地だけでなく当然、この大牟田にも必要です。今までの経験を被災地で活かし、さらにその経験を法人内外の仲間とこの大牟田に活かしていきます。

特に、みさき病院のスタッフの皆さんには不在になることで、ご迷惑をおかけしますが、宜しく申し上げます!!